武蔵野市第六期長期計画策定委員会　（第 17 回）

日　時：令和元年８月 22 日（木）　午後７時～午後８時 47 分
場　所：武蔵野市役所 412 会議室
出席委員：小林委員長、岡部委員、久留委員、栗原委員、中村委員、保井委員、
　　松田委員、笹井委員、恩田委員
欠席委員：渡邉副委員長、大上委員

１．開　　会

委員長の開会宣言に続いて、企画調整課長が、配布資料、委員会の趣旨・進行について説明した。

２．議　　事

（１）答申案について

企画調整課長が、答申案（素案 ver．４）について、ver．１からの主な変更点と、付表、参考資料の概略を説明した。

【Ａ委員】　「若者」「若年層世代」「若者世代」が混在している。私は、「若年層世代」を 18 歳以上から 20 代でイメージしている。その整理でいいか。
【企画調整課長】　Ａ委員の指摘を受けて、事務局で整理したものが参考資料「『若者』関連の表現の整理について」だ。「若者」「若い」「若年」の区別ができていなかった。「若者」は中学生・高校生、「若年」は 18 歳以上を意識している。したがって、例えば行・財政の基本施策１の（２）の「模擬投票や出前講座等を通して若年層への教育・啓発活動を充実させていく」は中高生のことを指す文章であることから、「若年層」を「若者」に修正する。
【Ｂ委員】　中高生と 18 歳以上を使い分けることで、用語の統一はかなり図られる。「若年層世代」は「層」か「世代」を取ったほうがいい。
【委員長】　「若者」関連の表現は、Ａ委員提案の方向性で修正する。
素案 ver．４の表記に関するその他の意見は、８月 26 日（月）までに事務局に連絡することとし、表記の修正等への最終的な対応は、正副委員長に

ご一任いただきたい。

（２）市長案について

企画調整課長が、市長案について、資料３「武蔵野市第六期長期計画に位置付けた 33 基本施策とＳＤＧｓの 17 の目標との関係」に沿って説明した。また、市長案が桜堤地区でのサービス再編の報告書に沿った形で変更になる可能性や、請願・陳情により記載が変更となる可能性を説明した。

【委員長】　資料３の表にマルの追加をしたい場合はどうすればいいのか。
【企画調整課長】　事務局で見落としているところもあると思われるので、ご指摘いただきたい。17 のゴール（目標）に分類された 169 のターゲット（具体的に目指す部分）に合致するかを事務局で確認し、反映する。
【Ｃ委員】　都市基盤は、経済成長やエネルギーなど多くの項目に関連する。提案時にマルをつける理由も添えるので、事務局でご判断いただきたい。

【Ａ委員】　本日の傍聴者アンケートの取り扱いは委員会終了後の取り扱いになる。対応は事務局一任という認識でいいのか。
【企画調整課長】　本日のアンケートは事務局で整理し、取り扱いが必要な案件は、正副委員長と相談する。

（３）長期計画策定に関する振り返り

【委員長】　第六期長期計画策定委員会の最終回にあたり、策定委員として在住市民の立場で携わったことを振り返り、感じたこと、疑問に思ったことを言っていただきたい。

【Ｄ委員（メール代読：企画調整課長）】　私は、第六期長期計画市民会議から選出され、公募市民として第六期長期計画の策定に携わった。学識も専門性もないため、みずから応募したにもかかわらず、こんな自分でやっていけるのかと不安になりながらの１年間だった。
子育て・学校教育、コミュニティ活動から得た経験を交えつつ、また、市議会や各種委員会、第五期長期計画・調整計画を傍聴してきたことをみずからの考えの裏づけとして、積極的に意見を述べてきたが、一市民としての意見と、策定委員としての意見のバランスをとるのは本当に難しかった。どの

分野においても全市民が納得できる施策という“正解”はあり得ない。この先 10 年の武蔵野市をよりよくするために、どんな計画が必要なのかを自分なりに考えた。行政が書き込みたい施策の中に市民感覚を反映させること、それが私たち在住市民委員の意義であり、武蔵野市らしさだと思うが、役目を十分に果たせたのだろうかという反省点が残る。

今後は、第六期長期計画が、市政にどう反映されるのか、しっかり見守りつつ、第六期長期計画・調整計画に向けて、今回の経験で得た感想や意見などを伝えていきたい。私にできる範囲で市の施策について、私の周りの人、特に子どもたちに、長期計画が日々の暮らしとどう関係しているのか、市政に関心を持つことの重要さも伝えていきたい。

策定委員会の意見交換は大変勉強になり、貴重な経験ができた。事務局の皆様は、議決・公表までまだ先が長いが、ワークライフバランスを大切にしつつ、作業してほしい。

【Ｅ委員】　私も市民会議から選出していただき、長期計画の策定委員会に参加した。市民会議委員の意見を策定委員会でシェアしたいという強い思いを持ちつつ、委員会の冒頭に委員長が言われた「策定委員会は自分がこうしたいということを通すのではなく、いろいろな人の考えや意見を聞いて調整する場」ということも心がけながら、パブリックコメントを読み、行政の皆さん、議員の皆さん、市長との意見交換に臨んだ。

全員が合意する形にまとまることは難しく、事前に目を通さなければならない資料は非常に膨大で、しかも個性あふれる文章を読み込むのは並大抵のことではなかった。また、その１つ１つを計画案のどこに生かせばいいのかを考え、そこから自分の意見も文書にまとめて提出するという作業は大変しんどいものだった。

心残りは、パブリックコメントで複数の意見を出した人の思いを読み取ることができなかったことだ。意見を項目ごとに整理すると、１人の人が出した複数の意見の底にある思いが見えなくなる。傍聴者アンケートに書かれた意見がパブリックコメントと同様に、計画に対する意見であることに気づくのがおくれてしまったのも、まことに申しわけなかった。市民会議でご一緒した方たちの話や考えも随時伺うつもりでいたが、後半の厳しいスケジュールの中、自分のことで精いっぱいになってしまい、十分に果たせなかった。

委員会での議論は刺激的で、たくさんのことを学んだ。課題があるとすれば、計画の言葉についてだ。もう少し市民寄りの言葉で書かれたものであってもよかったのではないか。市民感覚にフィットした言葉を使うべきだ。市民の思いが計画のどこに反映されているか読み取るのが難しいというのが非

常に困難な課題だと思った。

ともあれ大変いい経験をさせていただいた。行政の人たちは、これから10 年間、この計画に基づいて仕事する中で、様々な市民とやりとりをされる。ぜひ計画の中に込められた市民の思いを生かす形で取り組んでいただきたい。

【Ｆ委員】　私は、学識経験者枠で策定委員になったが、都市計画や社会学、行政については全くの素人だったので、非常に勉強になった。私は廃棄物処理が専門で、本来ならクリーンセンターの部分をたくさん書き込みたいところだったが、それは一切せず、ジャンボリーや開かれた学校づくり協議会委員の経験から、市民寄りの立場でこの計画に携わった。

私が担当した緑・環境分野は、武蔵野市に脈々と続いてきた誇るべきもので、私が手を加えなくてもいいような完成度の高いものが、原案の時点で既にでき上がっていた。そこに私の市民寄りの考えを導入して、エコロジカルネットワーク、アニマルウェルフェアについても書き込んだが、書き過ぎということで調整が入ったりもした。その調整のプロセスを通して、行政におけるコストの考え、バランス感覚を学ぶことができた。

「計画」と一言で言っても、市の方々と私の理解とは全然違っていた。大学などの研究機関は、まず研究計画を立て、チャレンジングでオリジナリティーと先見性のあることに重点を置くが、武蔵野市は、チャレンジングなことばかり掲げることはせず、今まで目指してきた方向を踏襲して、今後やっていくべきことをはっきり書く。ただ、その武蔵野市のやり方では、シャクトリムシのように進むことはできても、過去からの延長でない将来像には対応できない。市の目指すべき将来像を明らかにするためには、人材育成が大事であることは、Ａ委員が力説し続けていたとおりだ。

外国人の増加や情報化社会の進展など、将来の大きな変化、新しいことに市は対応していかなければならない。今回、第六期長期計画にはその大切さが書き込まれたが、市の目指すべき将来像についての議論は弱かったように思う。第七期長期計画では、チャレンジングな部分もぜひ書き込んでいただきたい。

【Ｇ委員】　私はこの長期計画の中で何ができたのかということを思い続けている。我々が委員会で議論してきたこと、我々の思いのたけは、今日から過去のものになる。議事録や資料を市民に見やすい形で残してほしい。

私は、シルバーサービスの振興という、高齢者の健康とか福祉の分野に長年携わってきて、Ｆ委員の言うチャレンジをしてきた。かつて市町村が供給

主体だった福祉の分野に民間が参入するまでには 30 年以上を要したが、今日では民間が我が国の福祉とか介護の大きな担い手となっている。武蔵野市の長期計画も、10 年後には「当時議論したとおりになったね」と振り返ることができるものになっているといいと思う。義務教育期間までの若者は市内で過ごす時間が多く、また、高齢期になるとあまり動けないので市の中に居住せざるを得ない。こうした方々が本当の意味で暮らしやすい市が一番だと思う。坂本龍馬が生きていた時代は、藩を出ることは許されなかったが、今はどこに住まうかは自由だし、転居も自由だ。武蔵野市は、ここに住みたいと思われるようなまちになっていくべきだし、なったらいいと思う。第六期長期計画はそういうまちに少しでも近づけられる計画であるといいと考えている。

武蔵野市は、その時代の新しいものを取り入れながら、相当先を見て、常に活性化している。「前例がありません」「予算がありません」という話で終わる自治体が多い中、武蔵野市の職員の皆さんは、前を向いている。働き方改革に逆行していると思わずにいられない面もあったが、それは、策定委員、委員会を傍聴に来てくださった皆さん、意見交換会に来て意見を申し述べていただいた方々、議員の皆様がそうであるように、この市が好きで、この市のことを一生懸命考えてくださっているからこそなのだろう。それに引きかえ 27 年の在住歴の私はどうだろうか、市のために頑張れただろうかというのが、この１年を振り返っての思いだ。

【Ａ委員】　私は、担当外のところに誰よりも首を突っ込み、様々な議論を起こし、時には事務局にかみつき、ご迷惑をおかけしてきた。この間、おつき合いいただいたことに感謝しつつ、３つの観点から感想を申し上げる。

１つは、長期計画そのものについてだ。今回のこの武蔵野市の長期計画は、将来に向けた企画なのか、既存の個別計画の承認なのか、私には最後まで見えないままだった。個人的には未来志向で議論してきたつもりではあるが、同時に、選挙で選ばれたわけではない策定委員が武蔵野市の将来にどこまでの責務で決めることができるのかという思いがあった。しかし、第六期長期計画は、これまでの長期計画とは少し違う未来志向に踏み込めたのではないか。少なくとも行・財政分野に関しては、今の武蔵野市の実力を的確に評価し、将来志向で書かせていただいた。第六期長期計画・調整計画までの間に、武蔵野市は何を目指していくのか、市民の中のコンセンサスをつくることが、今後の策定委員の宿題であり責務であると考えている。

２つ目は、武蔵野市民に対しての話だ。武蔵野市民にもっと市政に参加してもらうための市民の育成もしくは教育が、次の大きなテーマになる。自分

の住むまちの課題解決のためのラストワンマイルは、市民みずからが市役所や意見交換会などに足を運び、情報を届けてもらうことが求められる。市役所の限られた人手の中で、職員が現場まで行って草の根を刈るように情報を集めてくることを求めるのは無理がある。サイレントマジョリティの意見をどう汲み上げるのかという課題が指摘されるものの、自ら声を上げてこない人の意見をどこまで拾いに行かなくてはいけないのか、その非効率性をどこまで容認するのかについても考えていかないといけない。市民の意見は市民みずからが届けるという意識を醸成しなければ、本当の意味の市民の意見を反映した計画はつくれない。

３つ目は、武蔵野市役所の皆さんに向けての感想だ。禅問答を繰り返され驚いたこともあったが、武蔵野市役所のレベルは非常に高い。一方で、行政には限界も多いからこそ、策定委員会という外部の委員会をもっと活用することで既存行政をブレークスルーすることもできたのではないか。そのような積極性がもっとあってよかったのではないか。武蔵野市には、未来志向に基づき、日本の地方行政のリーディング行政であってほしい。今後の皆さんの活躍を期待するとともに、私も一武蔵野市民として、できることは引き続きお手伝いさせていただきたい。

【Ｃ委員】　私も、長期計画に対して思っていたことと、実際にやってみたことの違いを随分感じた。しかし、何とか一通りこなしてみて、大変勉強になった。

武蔵野市の計画づくりで何より私がすごいと思ったのは、「これは主語がないけど、誰がやるんですか」と聞くと、職員の方が「それは行政です」と答えてくれることだ。市の最上位計画には、責任を持ってできることを書くという行政の方々のブレのなさはすばらしい。私たちも安心感が持てる。

ただ、今回の長期計画は、市民との将来像の共有が、はっきり言えばない。将来どんなことが起きるかの整理し、考慮することはあったが、将来どういう姿になるのかがスタートではない計画だった。長期計画は 10 年の計画で、調整計画も入れると５年ごとだが、20 年、30 年の時は、あっという間にたつ。策定時には斬新なことも、すぐに時代おくれになってしまう。武蔵野市は、第一期基本構想・長期計画以来積み上げられてきたものをベースに、よりよくしていくという考えでつくられているが、将来像から始まるバックキャストな計画づくりも、どこかで検討しなければいけないのではないか。将来像から始まる計画になれば、基本目標や基本課題という部局を超えた課題により対応できるのではないか。

私は、学識として、また、市民として、委員になって何ができたのか、反

省ばかりだが、策定委員となったことをきっかけに携わることになった個別計画での議論とあわせて、できることをどんどん書いていきたいし、長期計画の今後にも期待したい。

【Ｂ委員】　私は、学識経験者枠で参加したが、行政に関する研究をしてきたわけではないので、私の学識を生かすことができそうにないと思い、市民という位置づけに徹してかかわることにした。

武蔵野市の長期計画は非常に専門性が高く、ここに書かれているそれぞれの文言が普通の意味での言葉ではないことに最初は随分戸惑い、その言葉の意味合いを理解するまでに時間がかかってしまった。10 年を考えて、抽象的なレベルの話をしつつ、それを具体的な計画の部分に結びつけていく。議論したことが文面にどう落とし込まれるのかもあわせて、１年かけてやっとわかったような気はするが、どこまでわかったと言えるのか、実は甚だ自信がない。

私が、この委員会の最初のときから考えていたのは、若い方の声を聞きたいということだ。この委員会のメンバーにも、もっと若い人がいてもいいのではないか。また、フルでかかわるメンバー以外に、パートタイムでかかわるという形も取り入れれば、子育てや介護真っ最中で時間がないという人も委員会に加わることができる。委員の皆様方、市の職員の方々、そしてコメントをお寄せいただいた方、意見交換会に参加していただいた方、傍聴で意見を下さった方、皆さんの努力と熱心さもわかった上で、そこまでできない人の声をすくい取るシステムがもう少しできないものかということを、この１年間を通じて思った。

【Ｈ委員】　Ｆ委員が何度か言っておられた「シャクトリムシ」という表現が大変印象に残っている。そのシャクトリムシと言われた各分野の個別計画も、長期計画と同じように、それぞれ公募の市民委員を含む策定委員がいて、意見交換会を開き、パブリックコメントに付している。計画というより、武蔵野市長期ビジョンとか長期構想というイメージのものを新たにつくり、実務的な面で何ができて、何ができないのか、全面的に見直さないと、委員の方々の指摘にはこたえられない。それには職員の縦割りや庁内のセクショナリズムを超えることが今後求められる。

委員会の議論を初め各種意見交換会やパブリックコメントでは、他の自治体と比べてもはるかに多い数の意見をいただいた。職員からも非常に多くの意見が出された。武蔵野市の計画は、文字どおりの市民参加・議員参加・職員参加でつくられている。今後、我々が市長案を作り、議会で審議され、実

行するにあたっては、いただいたご意見を全て踏まえているという重み、その大きな責務を忘れないようにしたい。

【Ｉ委員】　長期計画策定委員会には、私は職員時代、分野で携わったが、全体の計画の策定に第１回から加わるのは初めてだった。今回、長期計画が持つ意味とは何かを常に思いながら、行政側として議論させていただいた。

第一期基本構想・長期計画は、個別計画がない中で、武蔵野市の将来を行政計画としてどうするか、市長を交えて議論した。今は、その後の長い年月と経験からでき上がった一定の方向と形を伝承しているが、委員の皆様からいただいたご意見を計画づくりにどう取り込んでいくのか、今後議論する必要があるのではないか。

皆様には非常に厳しいスケジュールの中での計画策定となり、数々の無理をお願いすることになってしまったことについておわび申し上げたい。ただ、計画は２年、３年かけて議論すればいいというものではないという市の事情と課題もご理解いただければ幸いである。

【委員長】　私は、委員長を拝命したときから、調整役に徹すると決めていた。したがって、私は学識として参加しているという思いも余りなかった。

私が第五期長期計画・調整計画の策定委員だったときは、文化を担当しており、委員会の最後に、武蔵野の文化を考えるというような大きな話ができなかったのが残念だったという感想を述べた。今回は、私よりも文化に関心を持ってくださる人たちがいたので、それなりに議論できたし、専門分野的にもチャレンジングな部分が入った。つまり、気づける人がいれば、チャレンジングな部分は入る。今回はチャレンジングな部分が入らなかった分野も、次回は入る可能性がある。

この長期計画の策定方法は、非効率的で、改善していかなければいけないところはあるが、これ以上のやり方もないのではないかという、よくできた方法だと思う。コンサルに全部任せて、委員会はそれを了承して終わりという自治体が多い中、これだけ苦労して計画をつくるというのは、やはり武蔵野市の誇るべきことだ。

最後に、健康で最終回を迎えられたことを皆さんに感謝申し上げる。

（４）その他

企画調整課長が、資料４「第六期長期計画策定委員会　令和元年度スケジュール」に沿って説明し、今後の予定を確認した。

【総合政策部長】　昨年の７月から１年１カ月にわたり、委員会、作業部会のほか、各種意見交換会も含めると 40 回近くもの議論を重ねていただいたことに感謝申し上げる。近年、世の中の多様化、複雑化に伴い、行政が抱える課題はますます難しいものになっている。そのような中、皆様方には大所高所に立たれ、様々な角度からの深い議論を通して、10 年先の武蔵野市の姿、我々の目指していくべき姿をまとめていただいた。今後は、この答申を最大限に尊重し、第六期長期計画として定め、実行していくことが私たちの使命だと考えている。

委員長の終了宣言により、武蔵野市第六期長期計画策定委員会（第 17 回）を閉会した。

以　上